

河蝦鳴く 六田の川の 川柳の

ねもころ見れど 飽かぬ川かも

絹(巻九・一七二三)

旧暦8月25日は川柳発祥の日とされま
す。この歌の「川柳」は近世の「川柳」とは無関係ですが、川柳は滑稽な内容ばかりだと思
い込んでいたころ「国境を知らぬ草の実こぼれ合ひ」という作品を
知り、感銘を受けたこ
とを思い出しました。
「河蝦」はカエルの
総称でもあります、

この歌ではとくに美しい鳴き声で知られるカ
ジカガエルのこととい
われます。カジカガエ
ルは、本州以南の溪谷
などに生息する日本固
有種のカエルです。カ
エルといえはゲコゲコ
と鳴くイメージです
が、カジカガエルの鳴
き声は高く澄んでい
て、シカ(牡鹿)の鳴
き声に似ていることか

やまと
万葉がたり

ら河鹿と呼ばれるよう
になったといえます。
ヤナギは水分の多い
土壌を好み、水辺に自
生する植物です。挿し
木で容易に増え、しな
やかで強い根を張り巡
らせることから、水害
防止のために植樹もさ
れてきました。この歌
では、そうした川辺に
自生するヤナギがしっ
かりと「根」を張る植

物であることを踏まえ
て序詞とし、同じ首で
はじまる「ねもころ」
に掛けています。「ね
もころ」は「懇ろ」
の古い形で、つくつく、
じゅくじゅく、といった意
味で用いました。
「六田」は現在の吉
野町と大淀町に残る地
名で、このあたりを流
れる吉野川をとくに
「六田の川」と表現し
たとみられます。その
「六田の川」をどんな
に見ても見飽きない川
だとたたえた歌です。
この歌は「絹の歌一

【訳】カエルが鳴く六田の川の川柳の根の
ように、ねんごろに見ても飽きない川よ。

首とあるだけで「絹」
が正確にはどのような
名前であろう人物で
あったのか、詠まれた
時期や背景も含めて不
明です。しかし、夏の
清流に響くカジカガエ
ルの鳴き声に耳をすま
せてみたくなる歌で
す。歌にとって重要な
のは、作者名などの情
報ではないのだからと
思います。
(県立万葉文化館指導
研究員・井上さやか)
次回(9月8日)